

作成: 芝崎

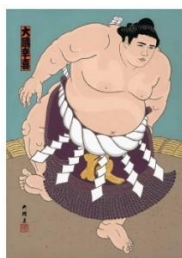
38. 一般篇 : バスにおけるある風景(その3)《**十人十色**の人間模様》

- (1) 私の前の席にすわっていたおばさんが急に降車鈕を押し、バス走行中に立上がり、降車口に。運ちゃん走行中は移動しないようにマイクで言ったが、無視。停留所に到着したが、降りない(バス停:一つ早かったようだ)一言も言わずに沈黙。降りないと判断バス動き、次のバス停で降車した。**我が道を行く小太りの怖いもの知らずのおばさん**。なんとも**十分**におかしいが、運ちゃんも何も言わず…言えないのかも。
- (2) バス停で待っていた時、おばあさんに席を譲ってあげたら、話しかけてきた。樺太生まれで**大鵬**のお母さんとは近所で付合っていてよく知っていると、**大鵬**の古い名刺を見せてくれた。そして、「国境の町」を歌っていた**東海林太郎**がこの国境に来てこの歌をうたったとか。私が**大鵬**の奥さんは**秋田(榮太樓菓子舗の娘)**の人で、**東海林太郎**は**(秋田の)**高校の大先輩と言ったら、喜んでくれた。あんた何年生まれかと、S25 という私はS4と、あんたと**10歳**違いだねと、「えっ?」と思ったが、**とても活発な元気なおばあさん**。
- (3) 席のない状態でおばあさんが乗車してきて、座っていた**若いOLさん**無言で手で合図して、立ち上がる。おばあさん、一礼して座る。**スマートで10倍もよい対応**((1)のおばさんよりも)に感心。帰りのバスで私は座っていたが、席のない状態で老夫婦が乗車してきた。奥さんは元気で、旦那はくたびれた感じ。さっきのOLさんと同様に、その奥さんにとっさに**無言で手で合図して、立ちあがる**。奥さんより何度もお礼を言われ、恐縮する次第…ここがOLさんのようにスムーズにならないなあ、思いつつ降車。
- (4) とあるバス停でおばあさん乗車。定期かパスを探したけど、なさそう。「忘れてきたけど、乗ってもよいか」等やり取りあり、最後に運ちゃん大きな声で「**ダメ!!**」結局、おばあさんバスから降りた。この手の常連と運ちゃん知っていたのであろう。その間、バスは停車。約**10分遅れ**で出発。**疑問ある迷惑なおばあさん**。
- (5) バス停に**10分**ほど待ってやっとバスが来た。私よりも早く待っていたおばさんが次のバス停で降りた。乗車時間1分もない。歩いて3分以下の距離。何か具合の悪い人かとバスの窓からおばさんを見ると、力強い足取りで歩いてゆく姿が見えた!**なんとなく適当で違和感残るおばさん**。

笑いのポイント(笑点)

- わ: 我(わ)が道を行くおばさん
- か: 活(か)発なおばあさん
- す: (ス)マートな対応の若いOLさん
- ぎ: 疑(ぎ)問がありすぎるおばあさん
- て: 適(て)当なおばさん

**十人十色**でなく、**五人五色**の紹介  
 おばさん、おばあさんとも**若すぎて**とても元気  
**自由奔放さ**が目立つ印象



大鵬と東海林太郎

備考:なんと秋田にある「東海林太郎音楽館」は「榮太樓」の2階に開館(H17.8.1)されていた。“偶然の一致、 以上